

準備時間の使い方について

2014年6月1日
全国教室ディベート連盟

ディベートの試合でいいスピーチをするためには、試合中の準備時間の使い方が重要になります。この、準備時間の使い方について、注意してほしい点を説明します。

1. 準備時間は何をする時間か

準備時間は、名前の通り、スピーチの準備をする時間として与えられています。したがって、

- これから行うスピーチの内容を考えて、整理する
 - その内容についてチームメイトと話し合う
 - スピーチで使う資料を手元にそろえる
 - 相手がスピーチで使った資料を確認する（ルール細則 B-7 項参照）
- など、よりよいスピーチができるように準備をしてください。

2. 準備時間とスピーチ時間の区別

他団体のディベート大会では、次のスピーチで触れる議論の順番などの説明（「ロードマップ」と呼ばれています）を準備時間中に行うことが、ルール上で認められている場合があります。しかし、ディベート甲子園ではそのような規定はありません。これは、ディベート甲子園ルールが、次の2つの点を重視しているからです。

1つは、与えられたスピーチ時間の中で、自分たちの主張と根拠が正確に伝わるようなスピーチをしてほしい、ということです。事前に説明を聞いた人だけに伝わるというのではなく、それだけ聞けばわかるようなスピーチを目指してほしいのです。例えば反駁のステージで、「今どの議論について反駁しているのかがきちんとわかるように話している」ということは、それ自体がスピーチの評価やコミュニケーション点に反映されます。ですので、この部分の説明をスピーチ時間の外で行うことをあえて認めるようなルールにはなっていません。

2つ目は、ディベート甲子園では、試合の進行は全て司会者のアナウンスに従って行うことになっています（ルール本則第1条第4項）。スピーチをする時間ではないところで審判に向けた説明を行うことは、司会者の指示によらずに話を始めることになるので、この考え方に反しています。

もちろん、準備時間にチームメイトと相談したり、相手チームに資料の提示を求めたりすることは大いにやってほしいと思います。しかし、そうではなく、審判に向けてスピーチの説明を始めた場合には、司会者の指示に反する行為となるため、審判からの警告やコミュニケーション点の減点対象になる場合があります。

以上の点に注意して、よりよいディベートができるよう、時間を有効に使ってほしいと思います。